

野毛山動物園における地域連携について

○櫻堂由希子¹⁾，今村友維子²⁾

(¹⁾ 横浜市立野毛山動物園，²⁾ 大牟田市動物園)

野毛山動物園は横浜の中心に位置する、都市の中に建設された動物園である。そのため、地域との関わり合いも多く、地元の飲食店街や学校との連携イベント等も多く行っているが、従来の単発的な啓発イベントでは幅広い年齢層や人数への啓発などが困難であった。そのためより多くの人への啓発と話題性を目的に野毛山動物園が所在する西区の区役所、近隣にある横浜市立中央図書館との3施設で連携し、環境省が定めた12月の「地球温暖化防止月間」において啓発イベント「シロクマ大ピンチ！」を多角的に実施した。

イベント内容としては各施設の利用者層の違いを利用して3施設を巡回するパネル企画展を行った。さらに各施設の特色を活かして西区役所では「イベント場所の確保」、「各種広報」、「ノベルティ作成」、中央図書館では「絵本の読み聞かせ」、「地球温暖化に関する図書の選定」、野毛山動物園では「ホッキョクグマの説明パネルの作成」、「毛皮の展示」などの役割分担をし、3施設合同の「お話し会」を行った。

結果、3施設において利用者の年代層が異なったことから、より多くの年代に地球温暖化について啓発できた。また、3施設で多く打ち合わせを行ったことからお互いの理解を得ることで今後の様々な連携イベント案などができるようになった。さらに、このイベントにおいて各種新聞や地域紙にも多く取り上げられた。

今回は「地球温暖化防止」というテーマのため、そのシンボルでもあるホッキョクグマを中心として展開したが、今後の展望としては野毛山動物園がより関わり合えるテーマを設定し、さらなる連携イベントを行いたいと考える。

